

七委員の辞任回避

水俣病認定審査会 知事、見通しを語る

県公害被害者認定審査会の徳臣

晴比古会長らとともに上京、水俣病審査問題で大石環境庁長官と話し合って帰任した沢田知事は九日午前、記者会見し、「審査会委員七人の辞任は避けられる見通しが出てきた」と次のように語った。

一、大石環境庁長官は、県側が

指摘した疑問点について解説書を

出すことを約束したが、これで徳臣会長は一応納得してくれたようだ。同会長は、「個人的には審査会にとどまる気持ちになった」と述べていた。

解説書が出るのを待って他の六人の委員と相談、態度を決めると言っておられるので、結論が出た

わけではないが、私としては明るい見通しになったと思っている。

一、徳臣会長の気持ちが変わったのは、大石長官が審査会委員の医学者としての立場を認識したとと、たとえ補充的な意味の解説書とはいえ、行政上では異例の措置をとった環境庁の態度に誠意が

くみとれたためたと私は推察して

いる。

一、解説書は一週間もあれば出来上がるということなので、これが届くのを待って早急に辞意を表明された七人の委員の結論を出してもらいたい。今月中には一応のメドがつくだろう。